

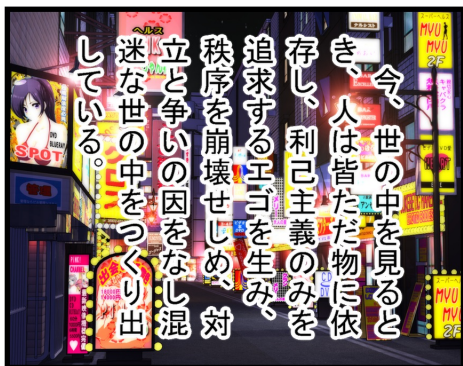
第3章

人吉海軍航空隊基地と戦争

人吉海軍航空隊
予科練五期生
薄灰岩雄氏の言葉



戦後の混乱と荒廃の中で如何なる苦難にも耐え得る不屈の予科練魂と克己心で祖国復興に生きてきた。



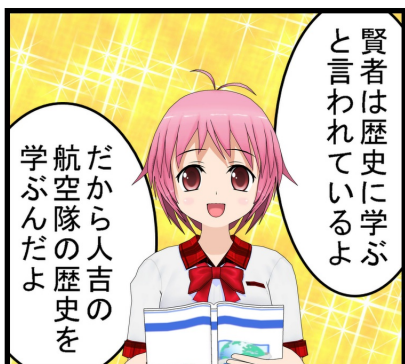
今、世の中を見ると、人は皆ただ物に依存し、利己主義のみを追求するエゴを生み、秩序を崩壊せしめ、対立と争いの因をなし混乱な世の中をつくり出している。

参考文献～『高原の予科練』（本田寿男）

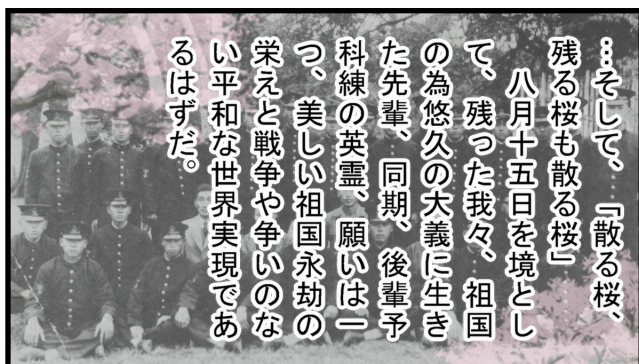


物で榮えて、心は亡びようとしている昨今である。
「じゃははははは」
我々はこの予科練魂を見直すことが最も大切であると信ずる。

写真出典～「人吉一期会名簿」



賢者は歴史に学ぶと言われているよ
だから人吉の航空隊の歴史を学ぶんだよ



…そして、「散る桜、残る桜も散る桜」
八月十五日を境として、残った我々、祖国の為悠久の大義に生きた先輩、同期、後輩予科練の英霊、願いは一つ、美しい祖国永劫の榮えと戦争や争いのない平和な世界実現であるはずだ。

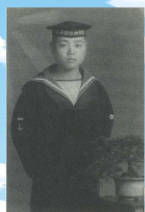
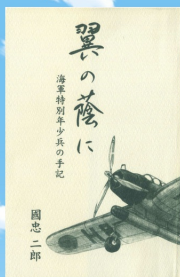
第二次世界大戦の末期
日本軍は劣勢になる一方だった：

1945年3月になると
人吉海軍航空隊は
本土防衛協力を求められ
教育をいったん停止して
元氣な教官や訓練生を前線に
おくりだすことになったんだよ



- 第1次兵力展開
：宮崎と鹿屋の航空基地へ
- 第2次兵力展開
：串良、指宿、山川、築城など
九州各航空基地へ
- 第3次兵力展開
：特攻や警備、砲台勤務のため
長崎、中国、台湾などへ

このとき国忠二郎助手は
鹿屋に派遣されたんだけど
詳細な手記を残しているよ



国忠二郎助手が整備員として
配属された芙蓉部隊は
「特攻拒否の異色集団」として
有名な部隊だよ

参考文献『高原の予科練』（本田寿男）&『翼の蔭に』（国忠二郎）

芙蓉部隊を率いていた
美濃部正少佐（当時27歳）は
第3航空艦隊の会議で
練習機による特攻が
提示されたとき：



速度の遅い練習機では
無数の敵機による嚴重な
防御陣を突破できません
特攻のかけ声ばかりでは
勝てるとは思えません

上官から「なまいきを言うな」と
叱責されてもひるまず：

今の若い搭乗員の
中に死を恐れる者は
一人もいません
ただ命をかけるためには
それだけの意義がいります
死にがいのある戦功を
立てたいのは当然です



練習機による特攻が
うまくいくというのなら
ここにおられる方々が
それに乗って攻撃して
みるといいでしょう

私が零戦1機で全部
撃ち落として見せます



参考文献『彗星夜襲隊』（渡辺洋二・光人社NF文庫）

※特攻＝敵に体当たりする攻撃のこと

その代わり美濃部少佐は
芙蓉部隊による夜間攻撃を実施し
特攻なしで善戦健闘していくの

参考：熊本出身の
岡嶋清熊少佐の言葉

戦闘機乗りというものは
最後の最後まで敵と戦い
これを撃ち落として
帰ってくるのが本来の使命
敵と戦うのが戦闘機乗りの
本望なのであつて
爆弾を抱いて突っ込むなど
という戦法は邪道だ



ちなみに
人吉海軍航空隊
基地飛行場跡の
近くにある
丸目家には
現地には
特攻隊の遺書が
残されているよ

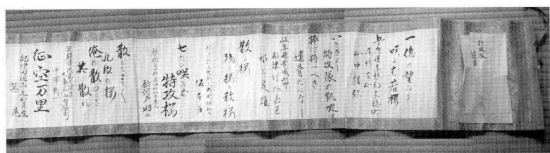


写真2-54 保管されている遺書



出典『戦後65年
の戦争遺跡』
（熊本の戦争遺跡
研究会・創想舎）

祝 隊碑竣工

1975年8月
球磨郡錦町に
人吉海軍航空隊の記念碑が
完成したよ



かつての第343海軍航空隊司令

源田実・元海軍大佐も
除幕式に参列したんだけど

源田大佐の指揮する
第343海軍航空隊は
日本本土を攻撃してくる
アメリカ軍機との戦いで
善戦健闘した部隊だよ

※参考① 源田大佐の経歴
・真珠湾攻撃作戦の立案に参加
・ミッドウェー作戦の立案に参加
・第343海軍航空隊を創設
・ブルーインパルス創設に尽力
※参考② 源田実・元海軍大佐の活躍
に対しては、肯定的な意見もあれば、
否定的な意見もあります。



写真出典～「祝 隊碑竣工」パンフ（予科練人吉会）

1945年7月
人吉海軍航空隊は解隊となり
人吉海軍航空隊基地は
中型練習機・軽爆撃機を以て
作戦する施設に指定された：



当時は練習機に爆弾を
装備して特攻する
という作戦もあったの

特攻（体当たり攻撃）に関する
源田大佐のエピソードとしては：

1945年2月
第5航空艦隊から
第343海軍航空隊に対し
特攻を出すように打診がきた

志賀飛行長「私が先頭で行きます
源田司令は最後に行ってください
ただし条件として
命令してきた上級司令部参謀が
最初に私と来るといいうなら
我々はやりませう」
源田司令「全くだ」

源田大佐がそのまま返答すると
上層部はそれ以来
特攻を求めなくなつたんだって：

参考文献～『源田の剣』（高木晃治、ヘンリー境田・双葉社）

特攻を拒否した第343海軍航空隊は
連携プレイでアメリカ軍機と戦い
善戦健闘していったの：

第343海軍航空隊と交戦した
アメリカ軍のVBF-17飛行隊
コナント戦闘機隊長の言葉

戦闘経験の深いパイロットの意見
では、ここで遭遇した日本軍のパイ
ロットは、東京方面で出遭つたもの
より遙かに優れていた。彼らは巧み
に飛行機を操り、甚だしく攻撃的で
あり、良好な組織性と規律と空中戦
技を誇示していた。

人吉市内には
かつて人吉海軍航空隊で訓練した
予科練のための「留魂碑」が
あるんだけど



その隣には
源田実・元海軍大佐が
半田亘理・海軍中尉
のため建てるた
追悼碑もあるんだよ

写真出典～「8月11日人吉で会お
留魂之碑記念祭・慰霊祭」パンフ
（予科練人吉会）



第二次世界大戦の末期
アメリカ軍は沖縄上陸作戦に先立ち
日本軍の戦力を弱めるため
九州や四国の基地を一斉に空襲した

1945年3月18日
人吉海軍航空隊基地

特攻隊員が訓練を
始めようとしているとき
警戒警報に続いて
空襲警報が……



アメリカ軍の23機の
艦載機が襲撃してきた

那須保穂助手の言葉

掃除をしていると、爆音がものす
ごいので谷の隙間から見上げると
編隊の飛行機が見える。
「おい、まだ日本にも飛行機がある
ぞ」と喜んでいたら
突然、機銃掃射が始まって爆弾の
破裂音が轟き始めた。
「馬鹿野郎、早く壕に入らぬか」
「貴様らは戦地の経験が無いから駄
目だ」と叱りどばされて、
それが怖くて壕内に飛び込んだ。

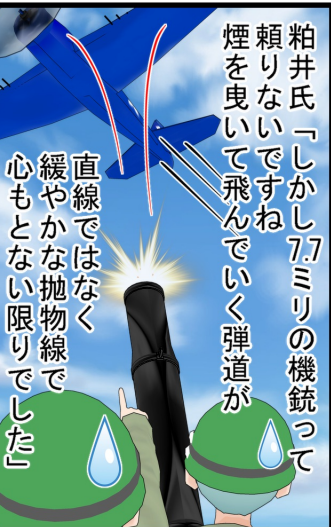
参考資料～『翼の蔭に』（国忠二郎）＆「貫次のおか目八目」（粕井貫次・平成17年8月1日号）

特攻隊の
粕井貫次
飛行長は
即座に応戦する



7.7ミリ機銃

粕井氏「しかし7.7ミリの機銃って
頼りないですね
煙を曳いて飛んでいく弾道が



直線ではなく
緩やかな拋物線で
心もとない限りでした」

人吉海軍
航空隊の
永井東
兵曹長は
13ミリ機銃で
応戦した



13ミリ機銃

参考資料～『城地区関係の歴史』（金子徹）＆「週刊ひとよし」所収「第四回球磨川アカデミア報告その3」

国忠二郎助手の言葉

轟々と爆音を轟かせて頭上を乱舞す
数十機の、アメリカ艦載機に対し、
訓練用の九三中練しか持たない練習航
空隊の悲しさ、日の丸をつけた飛行機
は二機も空中には見られない。
わずかに飛行場周辺に設けられた数
か所の機銃陣地が勇敢に迎撃してい
るのみ。いきおいそれは敵機の集中攻撃
の目標になり、急降しながらさかん
に機銃弾が撃ちこまれて、土煙と、機
銃の吐く煙がもうもうと立ちこめ、プ
ンブンと鼻をつく硝煙の匂いが音もな
くあたり一面にただよう。
あとから聞いた話であるが、機銃を
持たない連中の中には小銃で応戦した
者もかなりいたということである。



※粕井飛行長は爆風で
片足が血まみれに。
※永井兵曹長の反撃は
命中しなかった。

空襲の犠牲者
民間人4名死亡（大人2・子ども2）
指揮所の軍人9名死亡・1名重症
隊内の三菱航空機で14名が死傷

1945年3月18日
人吉の初空襲と同じ日
アメリカ海軍の航空母艦
カボットのグラマン4機が
人吉海軍航空隊基地を
空撮したんだよ



②大牟田では飛行場を発見できず

③菊池と隈府の飛行場で写真を撮り機銃掃射する

④人吉海軍航空隊基地を撮影する

⑤佐土原を撮影する

⑥新田原と宮崎の飛行場を撮影する

①新田原と宮崎の飛行場の南を通過する



アメリカ海軍の機動部隊の位置

参考資料～アメリカ軍の「AIRCRAFT ACTION REPORT」

地図出典～グーグルマップ

人吉海軍航空隊司令
田中大佐の言葉

「五月十四日、小型機十六機の波状攻撃あり。わが機銃員よく奮闘したが、撃墜するにいたらなかった。機銃員二負傷、建物に多数の貫通孔を生じたほか、飛行場には二、三の爆弾孔を生じた」

参考文献～『人吉海軍航空隊』（田中千春）

1945年5月14日には人吉海軍航空隊をねらった最後の空襲があったの

②第1撃は、東から西に向かい建造物をねらって、ロケット弾を発射し、爆弾を投下する。
③第2撃は、西から東に向かい機銃掃射する。掩体壕にいた飛行機は燃えなかった。

①宮崎の南を通過する。陸軍機「疾風」5機と交戦するが、被害なし。

④帰路には深田や免田などの村々を機銃掃射して、家屋や家畜に被害をもたらす。

アメリカ海軍の機動部隊の位置

アメリカの航空母艦サンジャントからグラマン16機が飛び立ち人吉を空襲したんだよ

アメリカ海軍の機動部隊の位置

参考資料～『城地区関係の歴史』（金子徹）

アメリカ軍は今回の空襲で基地をフルボッコにしたと思いきや、地下にあった施設は無事だったんだよ

アメリカ海軍の機動部隊の位置



1945年4月
日本の敗色が濃厚となっていたとき



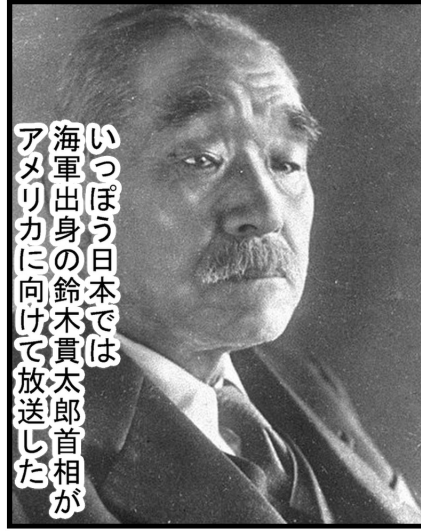
アメリカの
ルーズベルト大統領が死去した

敗北前だった
ドイツのヒトラーは
大喜び



戦犯が
死んだぞ
ざまあw

はははははは



いつぼう日本では
海軍出身の鈴木貫太郎首相が
アメリカに向けて放送した

参考文献～『平和の海と戦いの海』（平川祐弘・講談社学術文庫）

今日アメリカが
わが国に対し優勢な戦いを
展開しているのは
亡き大統領の優れた指導が
あったからです



私は深い哀悼の意を
アメリカ国民の悲しみに
送るものであります

しかし
ルーズベルト氏の
死によって
アメリカの日本に対する
戦争継続の努力が
変わるとは
考えておりません



我々もまた
あなた方
アメリカ国民の覇権主義に対し
今まで以上に強く戦います

ニューヨーク・タイムズは
この放送を驚きをもって報道し
読者もまた驚いた
そしてアメリカに亡命していた
トーマス・マンは英国BBCで：

敵対するアメリカ人を哀悼したり不幸を喜び、示す意は驚いた。



これは驚くべきことではないだろうか。日本は今アメリカと生死をかけた戦争をしている。
だが、ナチスの国家社会主義が我が国と同じような道徳的破壊と道徳的麻痺が、軍国主義の日本で生じたわけではなかった。
あの東洋の国日本には今なお騎士道精神と人間の品位に対する感覚が存する。今なお死に対する畏敬の念と偉大なるものに対する畏敬の念とが存する。これが独日両国の差異である。

鈴木首相の言葉は
戦争ですさんでいた世界に
感銘を与えた
これに影響されて連合軍は
日本に対する無条件降伏を取り下げ
有条件降伏にきりかえたとも
言われている

1944年末より
日本本土はアメリカ軍の
爆撃にさらされるようになった



人吉海軍航空隊司令
田中千春大佐の言葉

「口惜しいかな機銃数挺、
衛兵隊用として十数挺の
小銃のほかは、対空兵器
の一つもない練習航空隊
つらくないながら美事な
B29の大編隊が、悠々と
隊上空をとき西に、ま
た北に飛び過ぎて行くの
を、まなじりを決して
にらむのであった」



もはや日本に勝ち目がないのは
誰の目にも明らかであった…

参考文献～『人吉海軍航空隊』（田中千春・人吉三期会）

しかし日本の政府や軍部の強硬派は
戦争をやめようとしなかった

本土決戦！
一億特攻！



民間にも配る
ことになった兵器は
と言うと
たとえば…

※参考～国民武装用兵器
擲弾筒、迫撃砲、手榴弾など



擲弾筒

火縄銃

竹やり

それを見た
鈴木貫太郎首相は…

こりゃ
ひどいな…

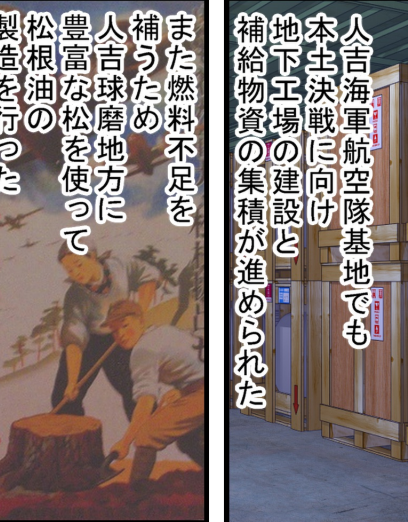


人吉海軍航空隊基地でも
本土決戦に向け
地下工場の建設と
補給物資の集積が進められた

また燃料不足を
補うため
人吉球磨地方に
豊富な松を使って
松根油の
製造を行った

松根油

松根油の製造に関しては
「真に軍官民一致の姿をここにみる
頼もしい実績をあげたのであった」
(田中司令談)



さらに国民武装用兵器の
製造も命じられたが
実験段階で暴発事故が起き
隊員1名が負傷した

田中司令は激怒して
上級官庁の参謀に向かって言った

敵をやっつける前に
味方を傷つけるような
信頼度の薄い兵器なら
もう作るの御免だッ



戦争末期になると
もはや日本に勝ち目がないのは
誰の目にも明らかであった
このまま戦争を続けても
日本人の命がムダに失われるだけ：

しかし「勝ち目がないから
戦争をやめよう」なんて言えば
日本の政府や軍部の強硬派から
殺されかねない風潮であり



無理に終戦すれば
強硬派のクーデターも起きかねず
誰もが口をつぐんでいた

また強硬派に反感をもつ人は
強硬派の息のかかった憲兵から
逮捕されたりしていた



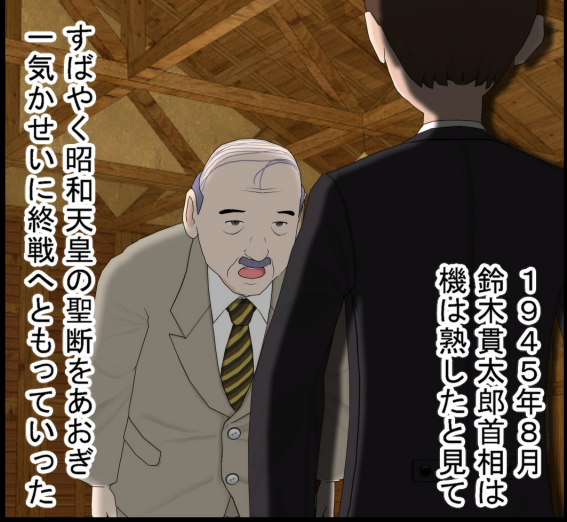
参考文献～『海軍少将 高木惣吉正伝』（平瀬努・光人社）

人吉出身の高木惣吉・海軍少将は
そのような状況において
身の危険をもちかえりみず



日本人の命を救うため
終戦を実現しようと
ひそかに情報を収集し
要人を説得してまわった

1945年8月
鈴木貫太郎首相は
機は熟したと見て



すばやく昭和天皇の聖断をあおぎ
一気にせいに終戦へともっていった

参考文献～『私観太平洋戦争』（高木惣吉・光人社NF文庫）

高木惣吉少将といったら
みなさんお分かりか
分らないようなら
あんたたち知らずだよ（中略）
旧日本陸海軍の軍人のことなぞ
小学中学高校大学を通じて
ほとんど教えないのだから
知るわけがない
あんたたちが恩知らずというより
あなた方の受けた教育
使った教科書が
どうかしているのである（中略）
本土決戦派の主張に従ったら（中略）
日本の存在は二千年ないし三千年の
のちまで脅かされるだろう（中略）
米軍と本土で戦った場合
私どもの世代の何十%が生き残れたか
見当がつかない
それを阻止し
終戦の方向へ日本の舵を少しずつ
少しずつ曲げていった
高木さんの命がけの努力については
詳細を略すけれど（中略）
救国の功臣・高木惣吉海軍少将の胸像が
美しいレリーフくらい飾られていても
少しもおかしくはない
出典『海軍こぼれ話』
（阿川弘之・光文社文庫）

高木少将の
記念館は
人吉市内に
あるよ



石庭内 高木惣吉記念館
〒868-0075
熊本県人吉市
矢黒町1970-5
TEL 0966-22-3637

人吉海軍航空隊基地では
田中司令が本部としていた
地下魚雷調整場の前に
召集をかけ
全員に終戦を
伝えたの

田中司令は告知後
基地にいた幹部たちと
今後のことを話しあったそうだよ

アメリカ軍が
進駐してきたら
皆殺しにされる
らしいぞ

さてさて
どうした
ものか：

人吉海軍航空隊基地の
戦後処理を命じられた
遊橋中佐は
とりあえず
物資をいれた防空壕の
出入口をふさぎ
基地の物資を
隠すことにしたんだって

わっせ！
わっせ！

人吉球磨の湯前出身のマンガ家
那須良輔さんの言葉

「敗戦の日、役場から村民に多量の焼酎の配給があった。まるで負け祝いみたいなことになり昼間から夢遊病者みたいになった酔っぱらいが横行した。今まで勝つまでは……と曲端に切りつめた生活をしてた連中が、急にみな無欲なことを口ばしして、西瓜も豚も牛もどうせアメリカ軍に食われちゃうんだから、村の衆が食べてくれろとふれ回っていた。その翌日から交代で豚や牛の密殺がはじまり、毎日肉がハンランした。（中略）終戦直後にいっぺんに牛や豚を殺してしまったので、その後は蛋白質の食料が不足勝ちになった」

進駐してきた
アメリカ兵は
ドカドカと土足で
家にあがり
こんでくる
という乱暴なことも
あつたけど

みぞに落ちた
荷車の引き上げを
手伝ってくれるなど
おだやかで親切だった

だから遊橋中佐は
おとなしく物資を
アメリカ軍に
引き渡すことにしたんだよ

HA HA HA

参考文献～『釣りキチ賛歌』（那須良輔・つり人ノベルズ）

多良木・中球磨農器具製作所の設立

遊橋中佐が企画し、免田の渡辺さんが出資して、免田駅（あさぎり駅）の裏に製作所をつくったんだよ。

戦後復興のため、失業した軍人に就職先を提供し、地域に不足している農器具を供給することを目指したの。基地にあった飛行機を材料にして、鍋やリヤカーなどを製造したよ。

終戦時にあった機体

93式中間練習機	×96
90式機上作業練習機	×3
90式艦上戦闘機	×8
96式艦上戦闘機	×19
2式練習戦闘機	×3
零式艦上戦闘機	×2
雷電	×1
96式練習爆撃機	×2
99式艦上爆撃機	×1
97式艦上攻撃機	×1
零式水上観測機	×1
零式水上偵察機	×2
2式水上戦闘機	×2
陸軍機	×1

ちなみに当時は基地の物資を不正に横流しをして逮捕された人も……
でも遊橋中佐の場合
そういうことはなかった

製作所の設立は
私利私欲ではない
という中佐の主張が
認められたんだね

田中司令

人吉球磨出身の
有名な政治マンガ家と言えば
那須良輔さんだよ



湯前まんが美術館
(那須良輔記念館)
熊本県球磨郡湯前町湯前1834-1
Tel 0966-43-2050



戦前に2度も軍隊に召集され
死ぬ思いをしたうえ
さらに子どもが生まれる直前
3度目の召集を受けたので
さすがに頭にきて：

召集令状は公平に届き
祖国のために戦うのだ
と思っただけなら
政府高官の子弟は
召集をのがれられる

俺は絶対に死なんぞ
石にかじりついても
生きのびてやる
何が天皇だ、祖国だ！



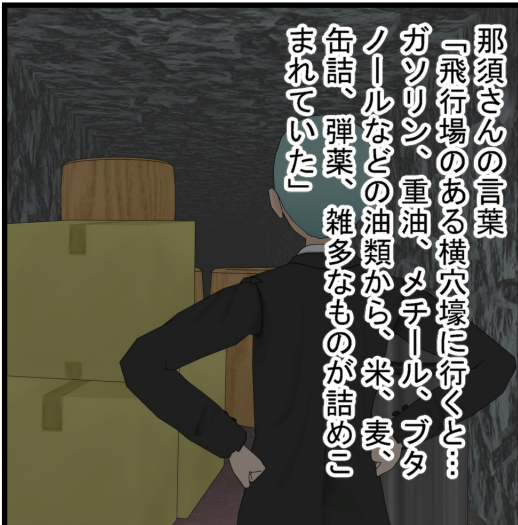
参考文献～『釣りキチ賛歌』（那須良輔・つり人ノベルズ）

終戦後
人吉球磨の湯前町にいた
那須良輔さんは
役場の命令でトラックに乗り
人吉海軍航空隊の物資を
運び出しに行くことになったの

陸軍の松本重夫参謀の
著書によると
終戦直後は役所が
軍隊の財産を引きつぎ
住民に分配する
ことになっていて
そうだよ
松本重夫



那須さんの言葉
「飛行場のある横穴壕に行くとき、
ガソリン、重油、メチール、ブタ
ノールなどの油類から、米、麦、
缶詰、弾薬、雑多なものが詰めこ
まれていた」

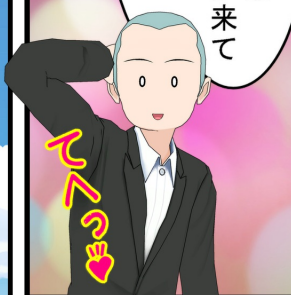


参考文献～『自衛隊「影の部隊」情報戦秘録』（松本重夫・アспект）

このとき
本土決戦に備え
小銃や弾薬も持ち出した
そうだけど：



小銃と弾薬は
あとで警察が来て
とりあげられ
ちゃいました

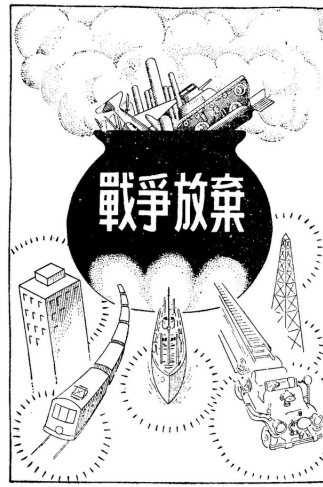


那須さんの言葉
「日本が降伏して第二次世界大戦は
終了したが、アジアの戦火が治まっ
たわけではなかった：ベトナムはフ
ランスと独立を賭けて戦い、インド
ネシアもオランダからの独立を目ざ
して戦っていた。かつて西欧支配下
にあったアジアの植民地が次々と独
立を勝ちとっていく。
太平洋戦争が生んだ
一つの側面である」



1945年8月 終戦

連合軍の命令により
日本の陸海軍の解体が
決まったよ



そこで1945年8月28日
日本政府は陸海軍の財産を
民間に放出し
食糧増産や民生安定に役立てる
ことにしたの



やるぞ!
国土復興だ!!

参考～財務局のサイトに掲載の『五十年史』

でも1945年9月24日

GHQ(連合軍最高司令部)は
日本政府の方針を認めなくて



陸海軍の財産は
GHQが没収して
戦用品以外を
日本に返還する

さらに1945年11月
ポレー賠償使節団の
中間報告では:

- ①日本には生活に必要な最低限の経済しか認めない。
- ②日本の工場を解体し、その機械や器具を賠償として国外に送る。(日本の工業をなくし、貧弱な農業国にする。)



こうした
GHQのやり方は
結果として
財産の管理を
難しくしてしまい
各地で混乱を
生じさせたの



参考～アジア歴史資料センターの電子データ「引渡関係」&『人吉海軍航空隊』（田中千春・人吉三期会）

もちろん人吉海軍航空隊でも
その財産(物品)をめぐる混乱が:

混乱の原因は
3つだよ



①GHQから物品のリストを提出する
ように求められたとき、すでに多
くの物品が放出や盗難によって、ゆ
くえ不明になっていた。

②物品の引渡責任者だった遊橋辰雄
中佐は、第22航空廠人吉分工場長を
していたこともあり、復員者を支援
するためや、農村の農器具不足をお
ぎなうために「多良木・中球磨農業
器具製作所」を設立した。
ところが、一部に不平不満をもた
れ、そのために物品の管理がおかし
くなってしまった。

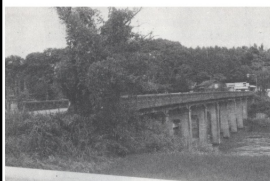
③施設部・設営隊は、さっさと物資
を処分して、復員してしまっただけ
で、物品のゆくえが分からなくなった。

田中司令の言葉

「俺がその地にあつたら…決して
そんな混乱や醜態はやらせなかつ
たものをと残念に思ったのは、い
ささか自信過剰であつたらうか」

エピソード① 柳瀬橋

航空隊基地と人吉市内を結ぶ柳瀬橋は、練習生たちが市内での楽しい休日を終え、厳しい訓練に戻るときに、悲しみながら渡ったので、涙橋とも呼ばれました。



写真出典～「人吉一期会名簿」より



写真出典～グーグルマップより

エピソード③ 1万メートルマラソン

いわゆる「予科練名物」として、1万メートルマラソンがありました。

第1回は、永江橋（今の川辺大橋）をスタートして、柳瀬橋に向かい、そこから飛行場に入り、滑走路を走りぬけて、庁舎居住地区の隊門まで戻ると言うルートでした。

第2回以降は、本隊や飛行場から、深田村まで走り、戻ると言うルートになります。



地図出典～ルートラボより

エピソード② 梅檀の木

人吉球磨の冬の寒さは厳しく、凍傷で苦しむ練習生が続出します。教官たちは、梅檀の実が凍傷に効能があると聞くと、柳瀬橋の近くにある梅檀の木から実を集め、練習生を治療しました。梅檀の木は、今もあります。



写真出典～グーグルマップより

参考文献～『人吉海軍航空隊』（田中千春・人吉三期会）＆『高原の予科練』（本田寿男・杉本興業株式会社）

エピソード④ 今も残る旅館

人吉海軍航空隊に勤務する教官は、人吉市内に下宿していました。教官の本田寿男分隊長は、こう書き残しています。「下宿先に到着くまでは、人吉市内の旅館を泊り歩き、鍋屋をはじめ、人吉旅館、吉野旅館、鮎里、魚芳、翠嵐楼等、着任早々お世話になったものであった」

本田分隊長が記している旅館

- 鍋屋
住所：人吉市九日町22
電話：0966-22-3131
- 人吉旅館
住所：人吉市上青井町160
電話：0966-22-3141
- 吉野旅館（芳野旅館）
住所：人吉市上青井町180
電話：0966-22-2244
- 鮎里（あゆの里）
住所：人吉市九日町30
電話：0966-22-2171
- 翠嵐楼
住所：人吉市温泉町2461-1
電話：0966-23-2361
- 魚芳
現在は廃業しています。

エピソード⑤ 飛行場の活躍

1954年9月、人吉球磨の水上市で山津波が起き、大きな被害が出ました。当時人吉球磨は、台風の被害で、外部との交通が困難になっていたそうです。

このときアメリカ軍の輸送機が、救援物資を積んで、基地跡の飛行場に着陸しました。滑走路は、輸送機の重みでコンクリートがへこんだそうです。

山の中の「海軍」のまちへようこそ



人吉駅…予科練生が軍用列車で到着しました。

海軍道路…予科練生が人吉駅から航空隊まで歩いた道です。

柳瀬橋…予科練生にとって、まちと軍隊との境界となりました。

梅檀の木…航空隊の教官が予科練生の凍傷治療にこの実を使いました。

留魂碑…元予科練生が建てた記念碑です。

鍋屋本館…戦前は海軍の将校倶楽部で、戦後は進駐軍が使いました。
山本五十六長官直筆の書も残されています。

高木惣吉記念館…終戦工作で日本を救った
高木少将の記念館です。

高射砲陣地跡
…鉄橋を守るために海軍第4機関砲隊が
ここに陣地をつくりました。
25ミリ機関砲6門が
すえつけられました。

『人吉球磨は秘密基地』

(非売品)

第4版・平成27年10月17日

よかったら
人吉球磨に残る
海軍のおもかげを
たずねてみてね

